

蒼穹 NEWS

No.4

七大戦総括号

平成 30 年 8 月 8 日発行



～目次～

- 1 主将挨拶・女子主将挨拶・監督挨拶
- 2 七大戦結果
- 3 七大戦詳細
- 4 七大戦記録
- 5 七大戦オープンの記録
- 6 応援にお越しいただいた OB・OG の方々

1. 主将挨拶・女子主将挨拶・監督挨拶

主将挨拶

去る7月28日、29日に北海道、厚別公園陸上競技場にて七大戦が開催されました。京都大学は男女総合優勝を目標に挑みましたが、男子が2位、女子が4位という結果に終わり、残念ながら目標を達成することができませんでした。

男子は400mや110mH、ハンマー投げのように複数名が入賞し大量得点をもたらした種目もありましたが、一方で短種目のように得点を獲得することができない種目もありました。優勝しました大阪大学は各種目でまんべんなく多くの得点を獲得しており、自力の強さと層の厚さに差があったように感じます。

9月24日には、太陽が丘にて東大戦が行なわれます。男子は七大戦の結果をみますと、東京大学は京都大学があまり得点できなかった種目で多くの得点を獲得しており、ここでランキングを覆して勝てるかどうか勝負の鍵になると考えております。

最後になりましたが、蒼穹会の皆様には猛暑の中、遙々北海道の地までお越しいただき、応援していただき本当にありがとうございました。七大戦で達成できなかった男女総合優勝を必ずや達成するために、これからの練習に励んで参りますので、今後とも変わらぬご支援ご声援のほど、何卒よろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部主将 安藤 滉一

女子主将挨拶

先日行われました七大戦で、女子は総合4位という結果に終わりました。男女総合優勝という目標に向け、全員が力を尽くして戦いましたが、今年は東北大学が抜きん出て強く、また東京大学、大阪大学も着実に点を重ねており、それらの大学には力が及ばず悔しい結果となりました。

しかしながら、400mで2人揃って自己ベストを更新した小野(4)、後藤(3)をはじめ、みな気迫ある、熱い戦いぶりを見せた選手ばかりであり、また応援やサポートの面でも、チーム一丸となって戦っていることを強く感じさせる場面が多くあり、チームとしてこの七大戦に向け努力してきた成果が現れた大会でもありました。

今年は日程の都合などにより、関西学生女子駅伝には出場することが叶いません。そのため、私たち4回生が前に立つ試合は残すところ東大戦のみとな

ります。七大戦でもかなりの点を取っている東京大学には、厳しい戦いを強いられることが予想されますが、七大戦での悔しさを晴らすためにも、必ず勝利を収めたいと部員一同思っております。

最後になりましたが、遠方での開催にも関わらず、多くの蒼穹会の皆様に応援、激励をいただき、誠にありがとうございました。皆様に嬉しい結果報告ができますよう、これからも精進して参りますので、今後とも変わらぬご支援ご声援のほど宜しくお願い致します。

京都大学陸上競技部女子主将 横山 優花

監督挨拶

7月29日から2日にわたり、北海道で七大戦が行われました。京都大学は男子総合2位、女子総合4位という結果になりました。男子はランキングを覆しての得点や、1位種目も多数獲得しましたが、取りこぼしも多く、大阪大学に実力負けをしました。女子も持てる力を出し切れた選手もいましたが、東北大の圧倒的な力の前に敗れました。全体として、得点圏にいた4年生のほとんどが、得点を落としたことが要所要所で響いた、という印象です。ただ、今年は3年生以下の選手の奮闘が目立ちましたので、来年に期待したいと思います。次は東大戦です。去年とは違い東大も力をつけており、男女ともに接戦が予想されます。近国、同志社戦の2連戦をしっかりと戦いチームとしてさらに成熟していった上で、東大戦も勝ちたいと思います。

蒼穹会の皆様方、暑い中大変多くの先輩方に来ていただいたにも関わらず、結果を出すことができず、申し訳ありませんでした。どうか変わらぬ御支援、御声援のほど、宜しくお願い申し上げます。

京都大学陸上競技部監督 紀平 直人

2. 七大会結果

男子総合の部

1位	大阪大学	97点
2位	京都大学	78点
3位	東北大学	66点
4位	東京大学	61点
5位	名古屋大学	53点
6位	北海道大学	44点
7位	九州大学	21点

男子トラックの部

1位	大阪大学	58点
2位	京都大学	44点
3位	東京大学	43点

男子フィールドの部

1位	大阪大学	39点
2位	京都大学	34点
3位	東北大学	30点

女子総合の部

1位	東北大学	27点
2位	東京大学	19点
3位	大阪大学	14点
4位	京都大学	9点
5位	北海道大学	7点
6位	九州大学	4点
7位	名古屋大学	0点

女子トラックの部

1位	東北大学	19点
2位	東京大学	14点
3位	大阪大学	11点

女子フィールドの部

1位	東北大学	8点
2位	京都大学	6点
3位	東京大学	5点

3. 七大戦詳細

1日目【7月28日(土)】

<トラック競技>

1500m 決勝

清原 陸	(2)	3.56.68	5位
木村 佑	(2)	4.01.20	10位
小柴 鷹介	(4)	4.11.07	15位

男子1500mには小柴、木村、清原の3人が出場した。北大の酒井、高橋らが序盤からハイペースで入り、縦長となる中、清原は4.5位前後、木村は8位前後、小柴は後方の位置取りとなった。レースはそのままハイペースで推移し、清原は終盤まで4.5位につけ、ラスト1周で先頭3人からは離れたが4位争いとなり、ホームストレートでの競り合いの末、自己記録に近いタイムで5位に入った。木村は中盤に東大近藤らの上がりに付いていけず、終盤は先頭集団から少し離れた第2集団に位置し、得点争いに絡むことは出来なかった。小柴はハイペースの展開に対応出来ず、粘ったものの終始後方でのレースとなった。(鶴見)

5000mW 決勝

高野 圭太(4)	21.03.11	4位
亀田孝太郎(3)	21.59.98	8位
馬淵 丈 (1)	24.01.10	12位 PB

男子5000Wは一日目に行われた。京大からは高野圭(4) 亀田(3) 馬淵

(1) が出場した。スタートしてすぐに縦長となり、第一集団前方に高野圭と亀田が入る。馬淵は先頭からは離れた位置

で歩くことになる。レース後半に亀田が集団から離されてしまい、落ちてくる人を拾っていく展開となる。終始先頭集団にいた高野圭は最後の一周で仕掛けるも他の選手に力及ばず逆に引き離され4位でゴール。その後亀田、馬淵もゴールした。悔しい結果となったが、馬淵のPBなど翌日へ勢いを与える結果もあった。(木野村)

男子4×100mR 決勝

小野—加藤—岡本—安藤	42.19	6位
-------------	-------	----

1日目の対抗の部のトラック最終種目である4×100mリレーには1走小野(3)、2走加藤(2)、3走岡本(4)、4走安藤(4)のオーダーで挑んだ。小野はスタートで他大に大きな後れを取ることはなかったが、1～2走間のバトンパスが少し乱れた。加藤はすぐに持ち直したが、当日の強い風の影響もあり2～3走間もバトンパスが乱れてしまう。3～4走間は安藤のケガの影響で練習不足であったこともあってバトンパスが乱れ、結果6着でフィニッシュした。(野田)

<跳躍競技>

三段跳 決勝

伊東 悠希 (4)	14m40(+1.8)	6位
三神 惇志 (3)	14m25(+1.7)	7位
岩井 響平 (1)	w13m50(+3.7)	12位 PB

三段跳には 伊東、三神、岩井が出場した。一本目、一回生の岩井は緊張感を漂わせながらも応援に応える余裕を見

せて自己ベストを大幅に更新する跳躍を見せてくれた。3本目も追い風を見方につけて13m50を跳び目標を見事に達成した。三神は調子が上がらず3本目に今日一番の跳躍をみせて4本目以降にコマを進めるが記録を伸ばせず自己ベストには遠く及ばない結果となった。伊東は一本目に追い風を見方につけてシーズンベストとなる14m40を跳び4本目からの跳躍に進んだが記録更新はならず6位入賞となった。(山本)

<投擲種目>

ハンマー投 決勝

三谷 圭 (3) 46m59 1位 PB
大橋 悟 (3) 45m93 2位 PB
藤田 歩 (2) 35m20 7位 PB

男子ハンマー投げは一日目に行われた。三谷(3)は1投目から45mを超えると、そこから波に乗り6投目には46m59を記録し、PB更新での優勝を飾った。大橋(3)は2投目にPBの45m93を記録する。3投目はファールで、4~6投目はパスをして2位となった。藤田(2)は1投目に34m45を記録。4投目には35m20を記録。5、6投目はファールであったが、こちらもPBを記録しての7位となった。1位2位が京都大学の選手となり合計11点を獲得、さらに出場3名全員がPBを更新、という幸先の良いスタートを切り、チームに勢いを与える結果となった。(泉)



逆転優勝を飾った三谷(3)

2日目【7月29日(日)】

<トラック競技>

女子400m 予選

小野 萌子 (4) 1.01.89 Q
後藤 加奈 (3) 1.03.45 Q

女子400m 予選には、後藤と小野の2人が出場した。後藤は1組に出場。5レーンを走る大阪大学の延安の思い切ったスタートには反応せず、後藤は落ち着いた走りを見せた。その後は東北大の佐貫が伸びを見せ、差をつけられたものの後藤は減速の少ない安定した走りで佐貫、延安に次ぐ3位で300mを通過。そこから追い上げたものの3位のままで予選を通過した。2組に出場した小野は、隣の6レーンを走る大阪大学の野尻とともに、良いスタートを決めた。野尻には追い抜かれたが勢いそのままに2位で200mを通過。カーブでは少しスピードが落ち、東北大の小川に追い上げられる。その後北海道大の大阪と並び3位でホームストレートに入ったが、そこから意地を見せて差をつけ3位でゴールした。(前田)

男子400m 予選

小原 幹太	(3)	50.40	q
浅井 良	(2)	49.41	Q
小谷 哲	(3)	49.27	Q

男子400m 予選には小原、浅井、小谷の3人が出場した。1組の小原は1レーン外の大阪大の志賀を見ながらのレースとなった。ラスト100m 付近で志賀と並び、そのまま2着で決勝へ進出した。2組の浅井は前半から積極的な走りで他の選手を圧倒した。ラスト50m 付近から後ろを見ながら流し、余裕を持って1着で予選を通過した。3組の小谷も前半から他の選手と大きく差を広げる展開となった。ランキングトップの実力を見せ、1着で決勝進出を決めた。(吉井)

400mH 予選

平田 泰行	(4)	55.96	q
長谷川 隼	(2)	56.39	Q
五十嵐 隆皓	(4)	55.49	Q

1組目の東北大の加地(2)が先頭に立ち、平田(4)は10台目付近まで2着についていた。最後に阪大の小西(4)に抜かれるもバックに強い向かい風が吹く中55秒をマークし、プラスで決勝へ。2組目はランキング首位の名大の真野(4)が棄権。長谷川(2)はそのチャンスをしっかりモノにし、余裕を持ち1着ゴールで着順による決勝進出。3組目は持ちタイム54秒の名大の稲見(4)、阪大の田里(4)がいる中、五十嵐(4)は好調な走りで1着にて着順で決勝進出。全員がランキングを覆し、

400m に続き3人での決勝進出を決め、向かい風の厳しいレースの中、京大に大きな追い風をもたらした。(酒井)

男子800m 予選

田中 達也	(4)	2.04.89	
土屋 維智彦	(3)	1.56.64	Q
木村 佑	(2)	1.55.98	Q

1組には田中達也が出場した。最初の200m は28秒通過と安定したペースだったが、400m 通過は1分7〜8秒と超スローペースに変わり田中は先頭にでた。しかし、後続からハイペースに移っていき、田中は集団内側に取り込まれてしまい徐々に順位を落としていき、ラストでも巻き返すことが出来ず、決勝進出を逃した。2組には土屋維智彦が出場した。レースは序盤から東北大の松田が飛び出て追いかける展開になった。二週目のバックストレートでは土屋と北大の高橋が先頭の松田に追いつき、ラストのカーブに入る頃には二人で先頭になり、ラストは無理をせず順位を確認するようにゴールし、決勝進出を決めた。3組には木村佑が出場した。スタートから集団の後方につき、冷静な走りを見せた。二週目のバックストレートに入ってからペースを上げ、カーブに入る前には後続を突き放した。そのまま後続に追いつかれることなくゴールし、決勝進出を決めた。(乙守)

女子100m 予選

花房	柚衣香(2)	14.28 (-3.9)	
小野	萌子 (4)	13.57 (-0.9)	q

女子100m1組に出場した花房(2)は、よいスタートを切ったものの、向かい風の影響を強く受けたのか、30mほどで他校の選手に大きく離され、後半スピードに乗るもその差は埋めきれず5着でゴールした。2組に出場した小野(4)は、スタートで出遅れるも、中間疾走からの伸びる走りで追い上げたが、やはり差は埋めきれず4位でゴールした。しかし最後まで粘った走りが功を奏し、小野はタイム1位で決勝に進出することができた。(湯谷)

男子100m 予選

安藤 滉一 (4)	11.34 (-2.4)	q
小野 貴裕 (3)	11.54 (-3.2)	
加藤 寿昂 (2)	11.49 (-3.2)	

男子100m 予選には、加藤(2)、小野(3)、そして主将である安藤(4)が出場した。小野はスタートでは並んだが加速がうまくいかず、最高速度こそ劣らなかったが、追いつけずに5着、加藤はスタートは良かったが最高速度をうまく出すことができず、3着と悔しい結果になった。安藤はスタートで飛び出し、中盤は二人に抜かされたが、後半粘りを見せ3着ではあったが、プラスで決勝進出を決めた。(田中)

3000mSC 決勝

足立 舜 (1)	9.44.51	8位
		大学初
渡邊 康介 (4)	10.03.22	15位
潮崎 羽 (3)	10.12.46	20位

3000mSC には渡邊(4)、潮崎(3)、足立(1)が出場した。試合は序盤から阪大の檜山らが飛び出し、ハイペースで進んだ。3選手とも真ん中あたりにつけ、後半からの巻き返しを図ったが、渡邊と潮崎は徐々に失速してしまい、思うように粘り切ることができなかった。足立はランキングでは2位につけていたものの、直前で故障に見舞われてしまい、後半にかけて前から落ちてくる選手を拾っていくもなかなかペースを上げることができずに8位でゴール。得点が期待された種目だったが、惜しくも得点なしという結果に終わってしまった。(吉村)

女子400m 決勝

小野 萌子 (4)	59.88	4位	PB
後藤 加奈 (3)	59.89	5位	PB

女子400m 決勝には小野(4)、後藤(3)が出場した。小野は8レーン、後藤は9レーンという難しいレーンではあったが、2人とも前半から積極的な走りをした。200m通過後、内側の東北・佐貫(3)、阪大・野尻(2)、同・延安(2)らに捉えられ苦しい走りとなるが、ホームストレートでは2人で競り合って意地の追い上げをみせた。小野が59” 88で4位、後藤が59” 89で5位と2人ともPBを更新し、1点を獲得。特に後藤は自身初の1’ 00” 切りであり、2人の好走は女子チームに大きな勢いを与えた。(鈴木)

男子400m 決勝

浅井 良 (2) 48.44 1位
小谷 哲 (3) 48.62 2位
小原 幹太(3) 49.57 6位

出場者3名全員が決勝に進出した。小谷は前半から前に出てレースを引っ張った。しかし、ラストの直線付近でうちのレーンの浅井に捕らえられ2着でゴール。浅井は1つ外の小谷をとらえつつ中前半を快調に飛ばし後半先頭にでてそのまま1着でゴール。小原は外のレーンの選手をとらえていたが、うちからの選手につめられて厳しい戦いとなった。しかし、最後はねばりをみせ6着でゴール。3人全員が得点に絡むとてもいい結果となった。決勝に残った選手が全員三回生以下ということもあり来年は今回以上のレベルの高いレースになる可能性が高い。(武波)



個人だけでなくマイルでも1位を獲得した浅井(2)

400mH 決勝

長谷川 隼 (2) 56.41 5位
平田 泰行 (4) 56.61 6位
五十嵐 隆皓(4) 58.03 8位

長谷川(4)は前半順調な走りを見せ、9台目まで2位争いを繰り広げていたが10台目で歩数が合わず失速、ラストで3人に抜かれる形で5位となった。平田(4)は前半から徐々に前の選手に離されたが、はじめから10台目までミスのない走りで粘って6位に滑り込んだ。五十嵐(4)は、1台目からうまくスピードに乗れず大きく他の選手と離され、後半もスピードが出ないまま差を埋めることができず8位となった。(松原)

女子100m 決勝(-2.0)

小野 萌子 (4) 13.72 6位

女子100m 決勝には小野(4)が出場した。レーンは2レーン。スタートでやや出遅れ、前半で差をつけられてしまった。後半に追い上げを見せ、隣のレーンの走者を追い抜くも、強い向かい風とこの日4本目のレースが影響したのか、大きくは伸びず、6位でゴールした。(鄭)

男子100m 決勝(-3.0)

安藤 滉一 (4) 11.36 8位

100m の決勝には3レーンに安藤(4)が出場した。安藤が顔を下げたから「セット」とスターターが言うのが速すぎるように思えた。そのせいもあってかスタートして3.4歩目で躓いてしまった。その

まま8着でゴールした。(森本)

女子800m 決勝

西川 真悠(1) 2.23.94 4位

安藤 百香(2) 2.34.68 10位

女子800m 決勝には、安藤(2)と西川(1)が出場した。スタート直後は2人で5番手、6番手につけていたが、300m付近で、西川は前方集団に、安藤は後方集団に分かれた。その後、前の3人とは離れたが、西川は残り200m手前で1人抜いて4位になり、ラスト50mでほぼ並ばれるも、切り替えて逃げ切り、4位を獲得。1年生ながら得点をとる活躍を見せた。安藤は最初の200mをハイペースで入る攻めの走りを見せるも、得点争いに絡むことはできなかった。2年生と1年生ということで、これからの活躍が期待される。(川井)

男子800m 決勝

木村 佑 (2) 1,59.84 1位

土屋 維智彦 (3) 2.03.16 7位

京大からは木村、土屋が出場した。序盤は木村、土屋とも集団についていったが1周目は66秒通過と超スローペースとなった。2周目に入ると同時に木村がロングスパートをかけ、トップに躍り出る。その後北大・高橋らの猛追を受けるもそれらを振り切って、見事に優勝を果たした。土屋は後半の急なペースアップに対応しきれず7位という結果となった。木村は、ランキング1位の記録でありながらも予選敗退してしまった去年の

雪辱を果たす見事な優勝となった。土屋も怪我に苦しみ十分な練習をこなせない中であつたが2年連続の決勝進出と安定した力を見せた。(乙守)



800m で優勝した木村(2)

110mH 予選

小野 貴裕 (3) 15.91 (-3.0) Q

吉川 広祐 (3) 16.28(-4.0)

福島 理 (4) 15.79(-2.9) Q

1組目には小野が出場した。1台目で阪大の仙石(3)にリードされるも、安定した走りで追い抜いた。一着でゴールし、決勝に進出した。

2組目には吉川が出場した。1.2台目が出遅れ、8台目もリード脚で押す形で失速してしまい、3着でゴール。残念なが

ら決勝進出を逃した。

3組目には福島が出場した。ハードルを倒すことが多かったが、力強い走りでインターバルを刻み、一着でゴール。決勝に駒を進めた。(永田)

200m 予選

安藤 滉一 (4) 22.70 (-3.2)

神先 宏樹 (4) 22.63(-1.9)

岡本 和也 (4) 23.22(-4.6)

全員4年生での出場となった。1組の安藤は前半はスピードに乗り先頭争いをしていていたが、直線に入る直前辺りから徐々に減速し、結果4位となった。2組の神先は1番外のレーンで50mまでは全体を引っ張っていたが、そこからは徐々に周りに追いつかれそして離された。こちらも結果は4位だった。3組の岡本は前半勢いよく飛び出し、決勝圏内にいたが、直線に入ってから後ろの選手に追いつかれ、結果は前の2選手と同じく4位となった。(藤田)

女子3000m 決勝

藤本 涼(1) 11.52.42

女子3000mには藤本(1)が出場した。スタート直後から阪大と北大の選手が飛び出し、藤本は縦長の3位集団の最後尾につける。徐々に集団が割れ、藤本は九大の選手を風避けにしてレースを進める。ラスト2周で前に出るが引き離せず、再び抜き返されてゴール。惜しくも最下位となったが、1年生ながら七大戦

で対校選手を経験でき、今後が期待される。(高木)

110mH 決勝(-2.5)

小野 貴裕 (3) 15.28 1位

福島 理 (4) 15.60 3位

110mH 決勝には小野と福島が出場した。小野は6レーン、福島は4レーンを走った。前半小野、福島は3レーン阪大の大塚、5レーン阪大の釜谷と横並びになったが、後半から小野が伸びを見せ、1着でゴールした。終盤、福島は2レーン阪大の仙石と3着を争って競り合い、同タイムでゴールしたが、着差で福島が3着となった。見事上位入賞し、10点を獲得した。(岩井)



110mH で優勝した小野(3)

5000m 決勝

原田 麟太郎 (3) 15.05.84 6位 PB
久田 雅人 (2) 15.33.49 9位
清原 陸 (2) 15.33.62 10位

5000m には原田(3)、清原(2)、久田(2)が出場した。5000m は、先頭を走った東大の近藤が大会記録を更新するハイペースなレースとなった。レース序盤、原田と久田は第2集団後方、清原は第3集団の真ん中あたりを走っていた。3000m 付近で久田が第2集団から遅れ始め、後ろを走る清原がその差を徐々に縮めた。原田はその後にも前についていこうと粘り強く走り続けゴール。自己ベストを更新、1点を獲得する素晴らしい走りを見せた。清原は、4000m を越えたあたりで久田に追いつき差を広げたが、久田がラスト200m 付近から物凄いスパートを見せ、清原との差を一気に縮め、わずかの差で清原よりも先にゴールした。久田、清原共に得点は獲得できなかったものの、苦しいレースの中で粘り強い走りを見せた。(清水)

女子4×100mR 決勝

花房一小野―後藤―中野 52.82 4位

1走の花房は勢いよくスタートすると、2走の小野にスムーズなバトンパスでつなぐ。二走の小野は100m、400m をそれぞれ2本走った疲れを感じさせない力強い走りで3走の後藤へつなぐ。このバトンもうまくいき、後藤もまた400m に出場した疲れがある中で力強い

走りをみせる。後藤から4走中野へスムーズにバトンがつながった時点で、京大は3番手につく。中野は専門が短距離ではない中でアンカーとして粘りの走りを見せるが、東大高石のスピードに及ばず、後半惜しくも東大に逆転されてしまい4着でゴールする。表彰台を目標としていただけに悔しい結果となってしまったが、スムーズなバトンパスには練習の成果が十分に表れていた。(藤本)

4×400mR 決勝

小谷―水野―小原―浅井 3.15.70 1位

七大戦の最終種目となった4×400mR。1走の小谷はこの日3本目のレースであったが、疲れを全く感じさせない圧巻の走りで2位以下を大きく離して、バトンを2走に繋いだ。2走の水野が後方との差を少し詰められながらも、1位で3走の小原に繋ぐと、その小原はバックストレートで一度東北大学の選手に追い抜かされたが、最後の直線で抜き返し、ここも1位でバトンを渡した。アンカーの浅井がそのまま先頭を走りきり、1着でゴールラインを駆け抜けた。メンバー全員が3年生以下ということで、来年はこの種目の連覇が期待できる。(犀川)

<跳躍競技>

男子走高跳 決勝

阪口 裕飛 (1) 2m04

走高跳には阪口が出場した。阪口は195cmから跳び始め、1発でクリア。続く

198はパスして、201も1発で危なげなく成功した。続く204も1本目失敗するも、2本目で成功。しかし、207は3本とも失敗で記録は2m04。2位の東北大の山下選手とは204の試技の差であった。結果3位で4点を獲得し、一回生ながらチームに貢献した。来年の七大戦は優勝を大きく期待できるであろう。(柳原)



一回生ながら3位入賞した阪口(1)

棒高跳 決勝

増尾 浩旗 (2) 4m10 5位 PB
平島 敬也 (3) 4m10 6位
黒川 泰暉 (1) NM

棒高跳には、平島、増尾、黒川の3人が出場した。3人とも3m80からスタートした。黒川は、練習跳躍では4mを超え

られそうな跳躍を見せたが、本番では、追い風のせいか進みすぎてしまい3本とも空中動作が乱れ、自己ベストタイである3m80を跳ぶことができず、NMとなった。増尾は、1回目はポールがうまくたたず、2回目は高さはあったもののポールが当たってしまい惜しくもバーを落としてしまった。しかし3回目で本領を発揮し、余裕をもってクリアした。時間は空いたものの、4m00は1回目で跳び、4m10も、1回目は手が当たってしまったものの、2回目でまだまだ余裕のある跳躍をし、自己ベストを更新した。しかし、4m20は超えることができなかった。平島は、3m80を1回目、4m00を2回目でクリアし、安定感を見せた。4m10は、1、2回目は左腕がつぶれてしまったが、3回目で修正し、クリアした。4m20でも突っ込みがつぶれてしまい、3回とも失敗してしまった。結果、京大は増尾5位、平島6位で3点を獲得した。(石田)

男子走幅跳 決勝

本居 和弘 (3) w7m17 (+4.7) 4位
南井 航太 (3) w6m64 (+4.2) 13位
仲村 快太 (1) w6m62 (+3.8) 14位

男子走幅跳には本居(3)、南井(3)、仲村(1)、が出場した。強い追い風が吹く中での試合となった。南井は1本目に6m64 (+4.2)、2本目に6m60(+2.7)をマークしたが、それ以上の跳躍は出せずにベストエイトに残ることはできなかった。

本居は1本目の跳躍は6m71(+3.8)とやや不発ぎみだったが、2本目には7m17 (+4.7)をマーク。3本目終了時点

で2位で折り返す。しかしその後記録を伸ばすことはできず最終的に4位となった。事前ランキングを大きく覆し3点を獲得することができた。(村田)

女子走高跳 決勝

林 玲美 (4) 1.65 2位
花房柚衣香(2) 1.35 8位

女子走高跳には4連覇がかかる大会記録保持者の林(4)と花房(2)が出場した。花房は専門種目でないものの、高跳び選手顔負けの跳躍で1m35をクリア、そのポテンシャルの高さを見せつけた。林は公式練習と1m56の1本目では本来の高さが出ず不調かと思われたが、続く1m59と1m62はさすがの修正力で一発でクリア。だがここで足にアクシデントが起これ、まともに跳躍もできない状態に。一方1m62を2回失敗した東北大、中村がここぞとばかりに1m65を一発でクリア。このまま試合が決まるかと思われたが跳躍の度にマットの上で身動きが取れなくなっていた林がここで1m65の3回目を成功させる。結局二人は1m68をクリアできず、試技差で勝敗が決まった。3年間1位と2位を占めていた二人の順位が4年目で初めて入れ替わった。身体がボロボロになっても意地で1m65を成功させた林と相手の隙を逃さなかった中村に拍手を送りたい。(阪口)

<投擲競技>

やり投 決勝

澤田 剛 (2) 57m08 2位 PB
中山 奎吾 (4) 53m84 6位

松井 そら (3) 52m92 7位 PB

男子やり投には中山、松井、澤田が出場した。松井は一投目、二投目と連続で自己ベストを更新し、三投目終了時点で6位に入った。澤田は二投目に自己ベストとなる57m08の大投擲をして三投目終了時点でトップに立った。中山は4回生の意地を見せ、怪我で練習がつめていない状況ながらも三投目で51m89を投げ7位に入った。その後中山が53m84、名大の栗林が60m49まで記録を伸ばして最終的な順位は澤田が2位、中山が6位、松井が7位となって6点を獲得した。(山野)

女子砲丸投 決勝

横山 優花 (4) 10m67 2位 PB
蒼穹新
中野 水貴 (2) 9m86 5位

女子砲丸投には横山(4)と中野(2)が出場した。大会新での優勝を狙う横山は、3投目でPBである10m67をマークするも、東北大の田中(1)が1投目から10m89の記録を出しており、2位でベスト8に進出。4位の北大の錦谷(4)と31cm 差をつけており、着実に目標に近づく。4投目以降、横山は1位の田中を追うも、10m89を越えることができず、2位で終了。中野は、5投目まで3位の座を守るも、6投目で阪大の神代(4)と北大の錦谷(4)に記録を抜かれ、5位で終了。惜しくも目標に届かなかった。しかし横山はPBをマークし、また中野も他大の選手と3位を争う接戦であったため、非常に見応えのある試合であった。(平岡)



女子主将としてチームを引っ張った横山
(4)

松井 そら (3) 32m73 7位
平島 敬也 (2) 31m71 12位

円盤投には大橋(3)、平島(3)、松井(3)が出場した。優勝候補の大橋は1投目から43m06を記録し1位に立ち、松井も3投目に32m73を記録して、2人がトップ8に残る。平島は31m71と惜しくもトップ8には残れなかった。以後の投擲でも大橋は1位を守りきり、前評判通りの活躍を見せた。松井も6投目に伸びを見せたが、7位となり得点にあと一步届かなかった。(馬淵)

男子砲丸投 決勝

松井 そら (3) 9m80 14位
藤田 歩 (2) 8m66 16位 PB
平島 敬也 (3) NM

男子砲丸投には平島(3)、松井(3)、藤田(2)の3人が出場した。松井(3)は1本目9m74、2本目は9m80、3本目は8m94で14位、藤田(2)は1投目がファール、2投目が8m65、3投目8m66と自己ベストを記録し16位、平島(3)は3投ともパスでNMとなり、ベスト8には残ることができなかった。(太田)

円盤投 決勝

大橋 悟 (3) 43m06 1位

4. 七大戦記録

(予選決勝あるものは決勝のみ)

<男子の部>

▼100m (-3.0)

1	芦田 周平	東北大	10.89
2	平松 力	大阪大	10.97
3	井上 昂	東京大	11.04
4	本司 澄空	九州大	11.10
5	阿久津 大貴	東京大	11.18
6	村井 輝	東京大	11.22

▼200m (-2.0)

1	芦田 周平	東北大	21.57
2	平松 力	大阪大	21.90
3	本司 澄空	九州大	22.05
4	聲高 健吾	東京大	22.13
5	白鳥 海知	東北大	22.21
6	井上 昂	東京大	22.31

▼400m

1	浅井 良	京都大	48.44
2	小谷 哲	京都大	48.62
3	志賀 颯	大阪大	49.03
4	長 奎吾	大阪大	49.06
5	蔵 啓太	名古屋大	49.32
6	小原 幹太	京都大	49.57

▼800m

1	木村 佑	京都大	1:59.84
2	高橋 祐輔	北海道大	2:00.05
3	小畑 皓恭	北海道大	2:00.73
4	安部 光騎	大阪大	2:01.00
5	岩井 宏樹	名古屋大	2:01.43
6	坂口 諒	東京大	2:01.49

▼1500m

1	近藤 秀一	東京大	3:51.51 GR
2	酒井 洋明	北海道大	3:52.21
3	高橋 祐輔	北海道大	3:54.83
4	金綱 航平	北海道大	3:56.43
5	清原 陸	京都大	3:56.68
6	荒田 啓輔	東北大	3:57.82

▼5000m

1	近藤 秀一	東京大	14:32.11 GR
2	酒井 洋明	北海道大	14:44.72
3	辻川 諒	九州大	14:53.47
4	松浦 崇之	東北大	14:59.04
5	竹鼻 大貴	北海道大	15:00.03
6	原田 麟太郎	京都大	15:05.84

▼110mH (-2.5)

1	小野 貴裕	京都大	15.28
2	釜谷 智貴	大阪大	15.48
3	福島 理	京都大	15.60 [591]
4	仙石 樹	大阪大	15.60 [594]
5	大塚 隆真	大阪大	15.67
6	勝井 友樹	東北大	15.70

▼400mH

1	加地 拓弥	東北大	53.92
2	小西 祐輝	大阪大	54.87
3	稲見 英知	名古屋大	55.33
4	奥村 知央	大阪大	55.53
5	長谷川 隼	京都大	56.41
6	平田 泰行	京都大	56.61

▼3000mSC

1	檜山 直生	大阪大	9:17.57
2	阿部 飛雄馬	東京大	9:24.59
3	塚本 亮司	名古屋大	9:26.16

4	奥田 健太	大阪大	9:28.72
5	川瀬 育夢	北海道大	9:33.08
6	栗山 一輝	東京大	9:36.63

▼4×100mR

1	東京大	41.21
2	大阪大	41.42
3	名古屋大	41.72
4	北海道大	41.98
5	九州大	42.00
6	京都大	42.19

▼4×400mR

1	京都大	3:15.70
2	東北大	3:15.94
3	大阪大	3:18.89
4	東京大	3:20.24
5	名古屋大	3:22.00
6	北海道大	3:22.43

▼5000mW

1	鈴木 智大	名古屋大	20:51.16
2	寺島 智春	東北大	20:55.01
3	後藤 潤平	東京大	20:57.89
4	高野 圭太	京都大	21:03.11
5	古川 誠也	大阪大	21:20.03
6	渡邊 遊	大阪大	21:29.75

▼走高跳

1	木村 友哉	大阪大	2m07
2	山下 一也	東北大	2m04
3	阪口 裕飛	京都大	2m04
4	羽田 充宏	大阪大	2m01
5	木下 秀明	東京大	1m98
6	北嶋 諒太郎	九州大	1m98

▼棒高跳

1	三宅 功朔	東京大	4m90
2	高橋 昇之	東北大	4m40
3	藤井 大輝	東北大	4m30
4	俣野 優介	名古屋大	4m20
5	増尾 浩旗	京都大	4m10
6	平島 敬也	京都大	4m10

▼走幅跳

1	中谷 豪汰	大阪大	7m51 (+2.0)
2	角屋 喜基	名古屋大	w7m44 (+3.5)
3	伊藤 裕也	名古屋大	w7m30 (+2.7)
4	本居 和弘	京都大	w7m17 (+4.7)
5	堀田 優斗	大阪大	w7m11 (+2.4)
6	高橋 昇之	東北大	w7m03 (+3.1)

▼三段跳

1	伊藤 裕也	名古屋大	15m18 (+1.5)
2	木下 秀明	東京大	15m12 (+1.4)
3	中谷 豪汰	大阪大	15m12 (+2.0)
4	藤 悠里	九州大	14m88 (+1.8)
5	古国 利啓	大阪大	w14m58 (+4.3)
6	伊東 悠希	京都大	14m40 (+1.8)

▼砲丸投

1	重吉 比呂	大阪大	12m57
2	楠 哲也	東北大	12m53
3	長谷川 奨	名古屋大	12m43
4	八木澤 光大	東京大	11m61
5	大野 誠尚	東北大	11m59

6 野村 琢真 大阪大 11m35

▼円盤投

1 大橋 悟 京都大 43m06
2 楠 哲也 東北大 38m20
3 諏訪 雄山 九州大 35m67
4 塚本 健太 北海道大 35m47
5 佐竹 俊哉 東京大 34m75
6 横浜 立 北海道大 33m12

▼ハンマー投

1 三谷 圭 京都大 46m59
2 大橋 悟 京都大 45m93
3 横浜 立 北海道大 43m55
4 野村 琢真 大阪大 41m82
5 野尻 英史 東北大 38m95
6 立花 悠馬 名古屋大 38m01

▼やり投

1 栗林 篤 名古屋大 60m49
2 澤田 剛 京都大 57m08
3 野村 琢真 大阪大 56m46
4 小西 慧樹 大阪大 55m35
5 楠 哲也 東北大 54m99
6 中山 奎吾 京都大 53m84

<女子の部>

▼100m (-2.0)

1 佐貫 有彩 東北大 12.87
2 内山 咲良 東京大 12.92
3 佐々木 千肅 東北大 13.05
4 尾崎 里帆 北海道大 13.29

▼400m

1 佐貫 有彩 東北大 57.63
2 野尻 真由 大阪大 58.69

3 延安 美穂 大阪大 58.94

4 小野 萌子 京都大 59.88

▼800m

1 高石 涼香 東京大 2:16.02
2 上條 麻奈 東北大 2:16.48
3 豊澤 みどり 北海道大 2:17.72
4 西川 真悠 京都大 2:23.94

▼3000m

1 高石 涼香 東京大 10:16.93
2 三池 瑠衣 大阪大 10:25.60
3 上條 麻奈 東北大 10:34.91
4 藤原 ゆか 東京大 10:40.45

▼4×100mR

1 東北大 50.04
2 大阪大 50.44
3 東京大 52.07
4 京都大 52.39

▼走高跳

1 中村 真璃子 東北大 1m65
2 林 玲美 京都大 1m65
3 内山 咲良 東京大 1m56
4 福田 早紀 大阪大 1m53

▼走幅跳

1 岩本 法子 九州大 w5m73
(+3.5)
2 内山 咲良 東京大 w5m65
(+3.7)
3 原田 和泉 北海道大 w5m50
(+2.7)
4 尾崎 里帆 北海道大 5m47 (+1.5)

▼砲丸投

1	田中	紀香	東北大	10m89
2	横山	優花	京都大	10m67
3	神代	結	大阪大	10m11
4	綿谷	咲良	北海道大	9m87

5. 七大戦オープンの記録

<男子の部>

▼100m

清水 利宇	11.34	-2.7	CB
紀平 直人	11.54	-4.6	
珍坂 涼太	11.63	-2.7	
湯谷 樹生	11.71	-1.1	
藤田 雄大	11.80	-4.5	
土屋 佑太	11.80	-4.6	
村田 憧哉	11.86	-2.9	大学初
松本 佳太	11.92	-2.4	CB
横山 寛樹	11.93	-2.7	
森本 健太	11.96	-4.6	大学初
数多 伸紀	12.14	-2.3	
浅野 智司	12.14	-2.7	
鄭 晟皓	12.15	-1.1	大学初
松原 耕平	12.16	-3.1	大学初
芦田 開	12.35	-3.4	
前田 朝陽	12.40	-2.0	大学初
永田 智季	12.44	-3.4	

▼400m

平野 亘	52.68	大学初
土屋 佑太	53.14	
前田 朝陽	53.37	CB
犀川 啓太	53.96	大学初
宮崎 奨之	54.14	
堀葉 俊春	55.35	大学初
川 俊太	55.79	大学初
柳原 拓海	55.88	大学初
酒井 良佑	56.50	大学初
岡本 郁翔	56.50	
柴田 裕平	57.23	大学初
山本 祐己	59.65	大学初
飯田 駿介	60.50	

▼1500m

宇佐美岳良	4.14.97	CB
柴田 裕平	4.16.07	
川井 景太	4.16.51	CB
稲垣 達也	4.17.46	
谷川 尚希	4.18.11	
大前 晃一	4.20.23	
清水 厚佑	4.20.83	大学初
乙守倫太郎	4.20.89	大学初
鈴木洋太郎	4.21.33	
泉 竣哉	4.21.39	自身初
清水 秀広	4.22.04	
平中 章貴	4.23.31	
木野村隆宏	4.25.76	大学初
相澤 航	4.31.06	
吉村 柊太	4.32.34	大学初
鶴見 薫樹	4.34.25	
津吉 順平	4.36.50	PB
足立 大宜	4.39.13	
岡本 郁翔	4.44.70	大学初

▼5000m

稲垣 達也	15.37.89
相澤 航	15.54.90
足立 大宜	16.53.97

▼5000mW

平岡 拓	DQ
------	----

▼4×400mR

永田－湯谷－松原－松本	3.30.60
-------------	---------

▼棒高跳

石田 風太	NM
-------	----

▼走幅跳

村田 憧哉 6.47 +2.0

横山 寛樹 5.66 +1.1

▼やり投

浅野 智司 52.98

山野 陽集 40.95

<女子の部>

▼100m

菅野 紗希 13.90 -3.0

奥村 夏子 14.82 -4.0

▼1500m

上島 ほのか 5.14.18

鶴崎 涼花 6.03.78 自身初

▼5000mW

高野 寛子 26.25.61

6. 応援にお越しいただいた

OB・OGの方々

御名前 御卒業年度

森本正幸様 S41

藤原忠義様 S41

中村茂夫様 S48

桂総一郎様 S51

三好稔彦様 S54

熊谷元様 S59

安藤信夫様 S61

堀田孝之様 H24

長谷川聡様 H24

眞武俊輔様 H24

宿利隆司様 H24

平井幹様 H26

下迫田啓太様 H28

加藤陸至様 H30

真杉陸様 H30

坂口雄太様 H30



蒼穹ニュース 平成30年度 第4号
平成30年8月8日発行

発行所：京都大学体育会陸上競技部
編集者：宇佐美岳良・堀葉俊春・久田雅人（副務）
特別協力：秋本啓太・三田村侑紀・山口佳那子（学連員）
加藤寿昂・長谷川隼（記録係）・浅井良（HP 係）
写真担当：花房柚衣香・上島ほのか・岡本郁翔

陸上競技部 HP	http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/
陸上競技部記録 HP	http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/kiroku/index.htm
関西学連 HP	http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm
メールアドレス	strongthrowakiyama@gmail.com（堀葉）